



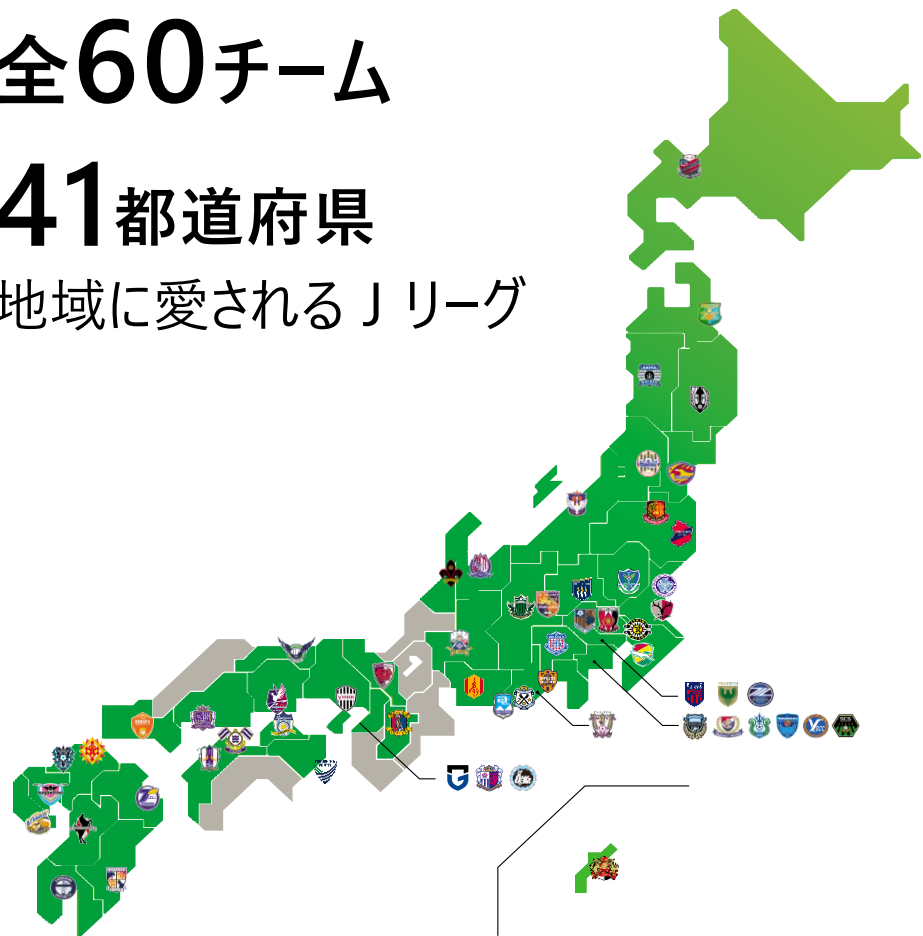
Jリーグのサステナビリティ活動

2025.05.17

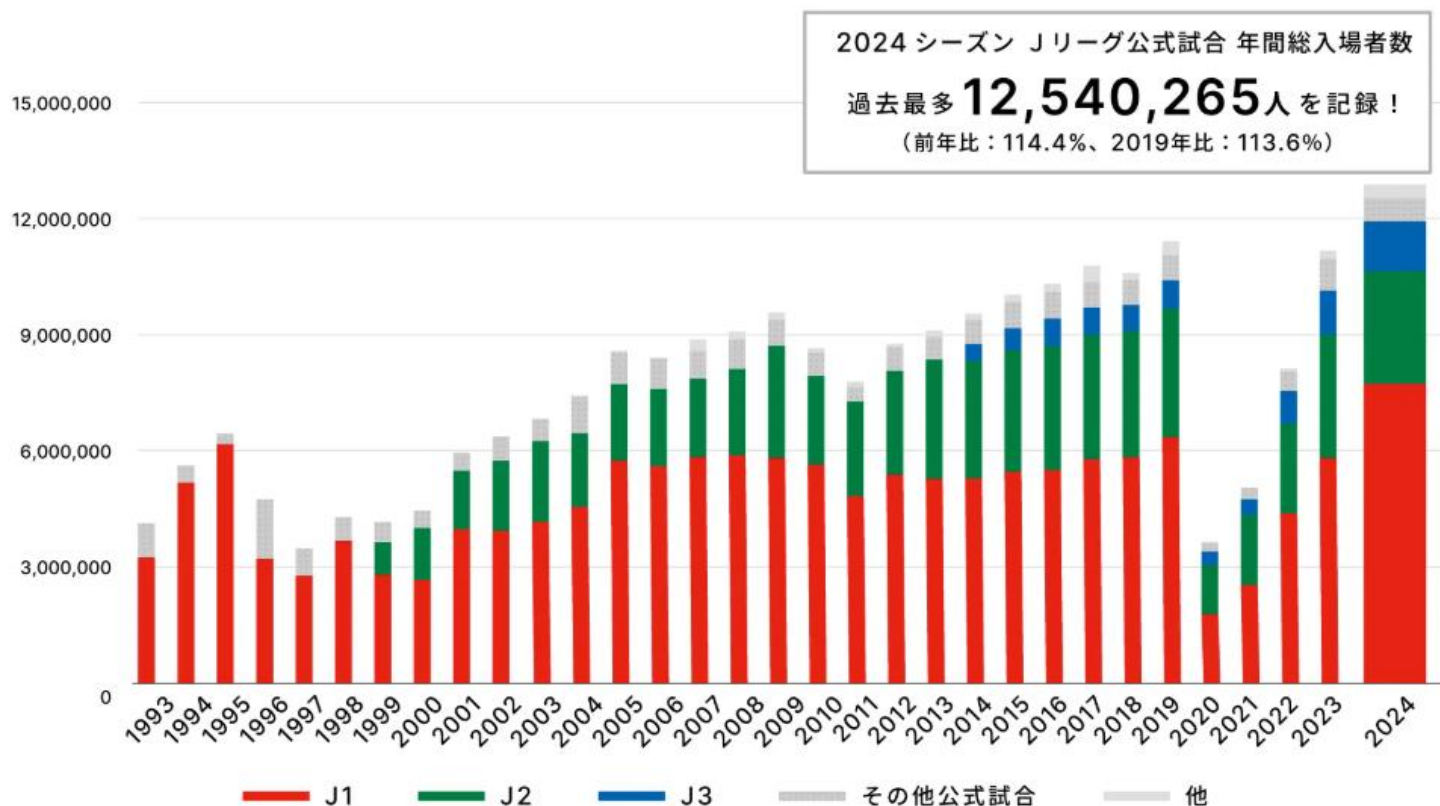
全60チーム

41都道府県

地域に愛されるJリーグ



年間総入場者数は約**1,250万人**



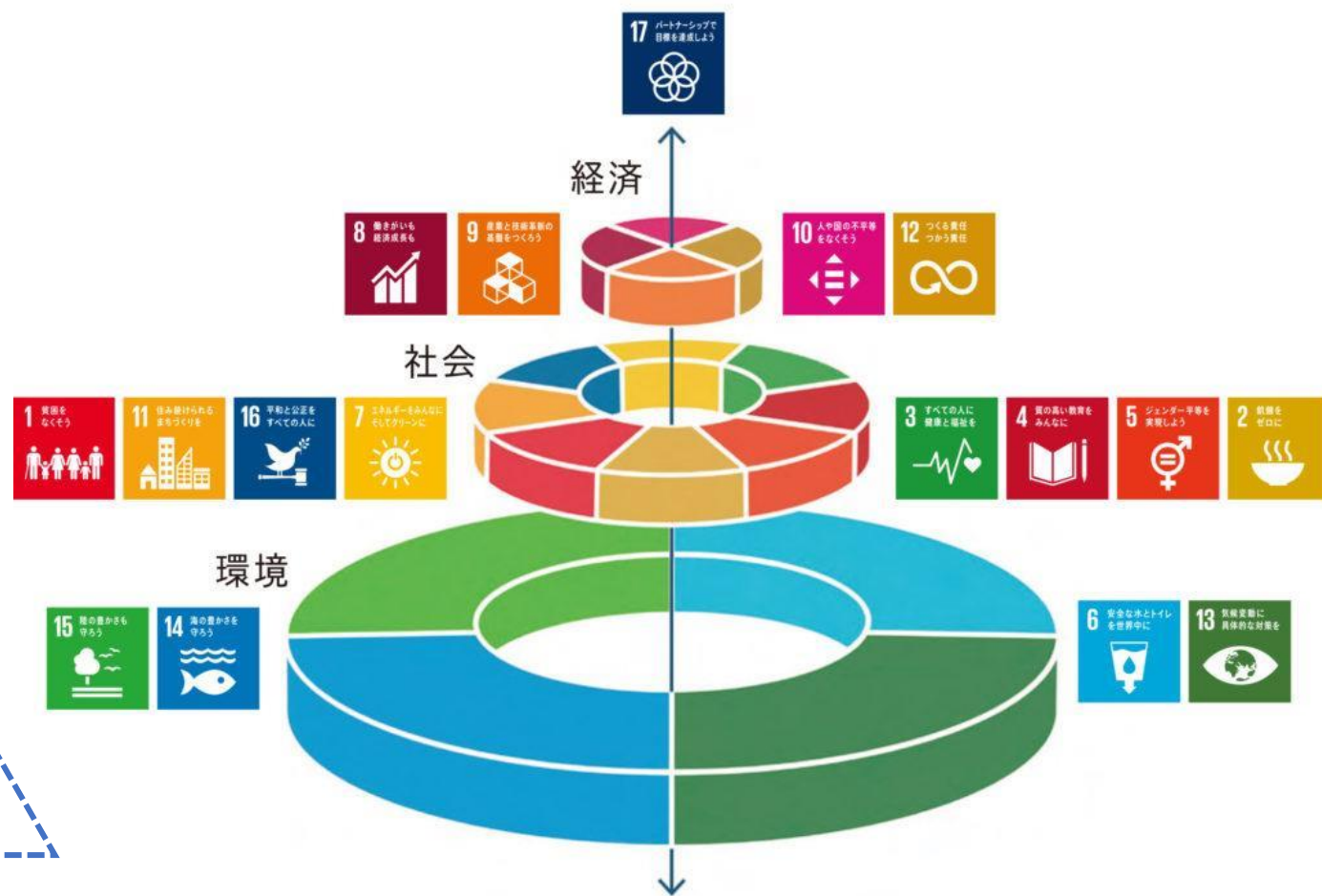
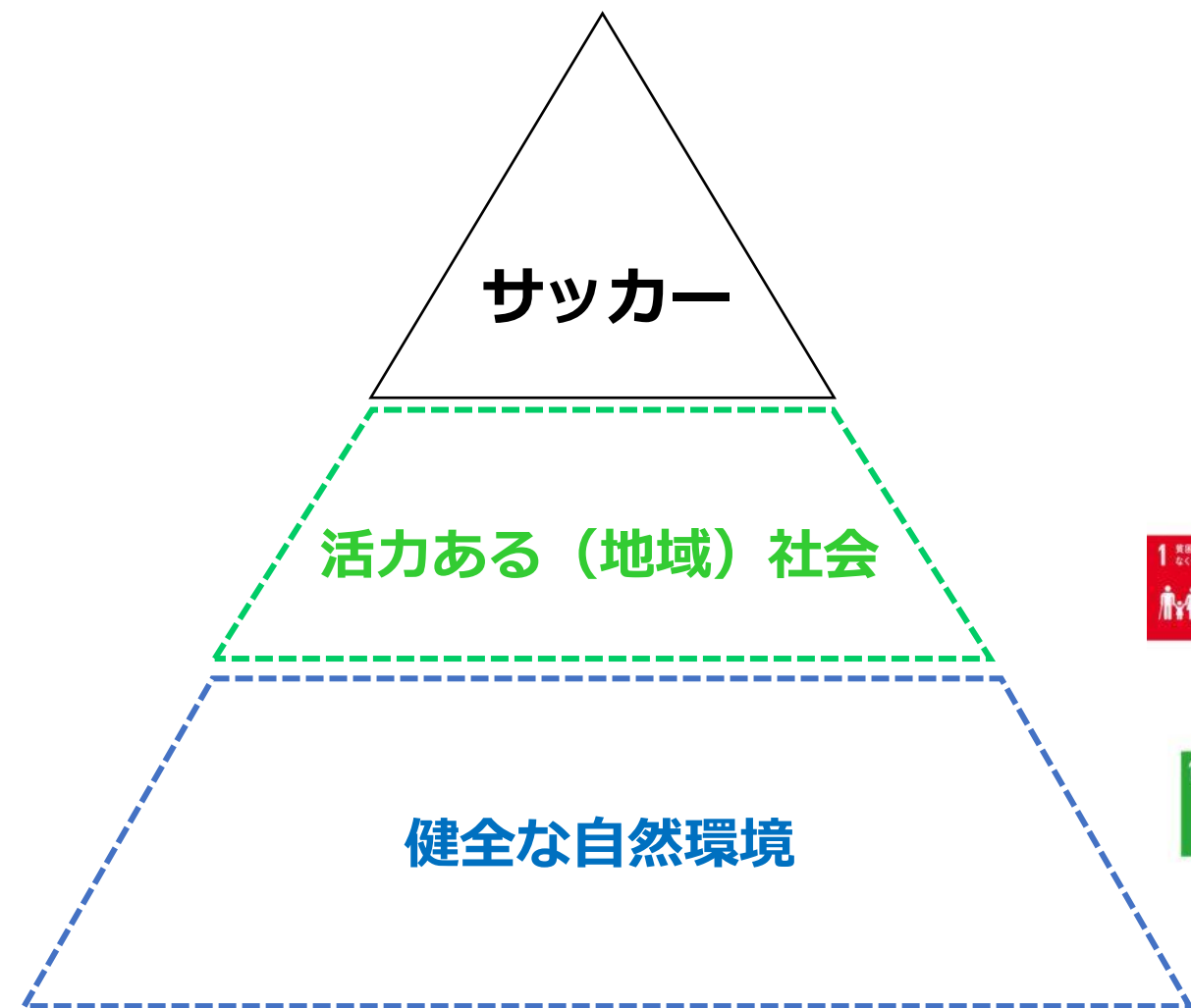
■ Jリーグの理念

日本サッカーの水準向上
及びサッカーの普及促進

豊かなスポーツ文化の
振興及び国民の心身の
健全な発達への寄与

国際社会における交流
及び親善への貢献

サッカーを支えているもの



ホームタウン活動イメージ



ホームタウン活動実績（2023年）

60クラブ全体集計

年間活動回数

30,614回

トップ選手の活動人数

うちシャレン活動回数

3,778回

8,009人

活動者

10,858回	監督・コーチングスタッフ
9,696回	クラブ役職員・アンバサダー
3,223回	トップ選手
905回	代表(会長・社長等)
683回	アカデミー選手
347回	女子選手
10,211回	その他

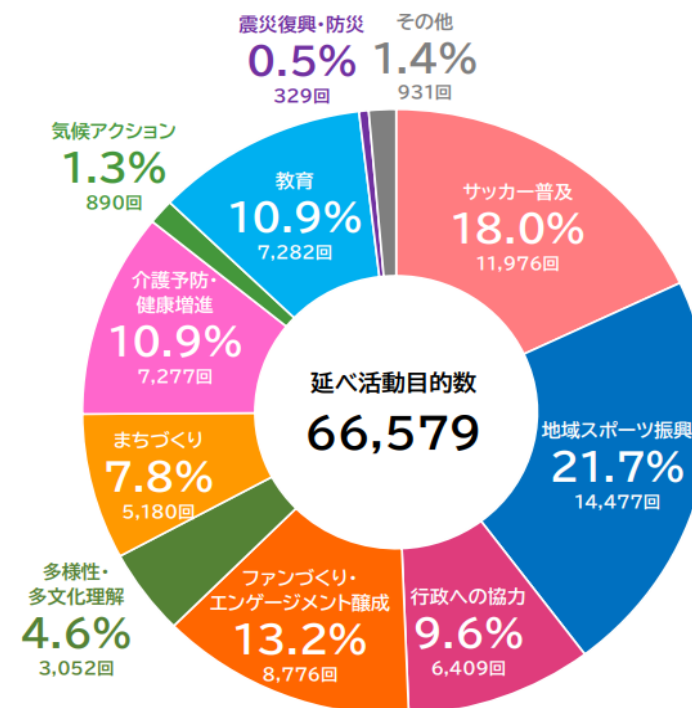
協働者

11,994回	行政
8,703回	企業
6,922回	教育機関
5,197回	NPO等の非営利組織
1,483回	自治会や商店街等の地域組織
65回	サポーター/ボランティア
4,723回	その他

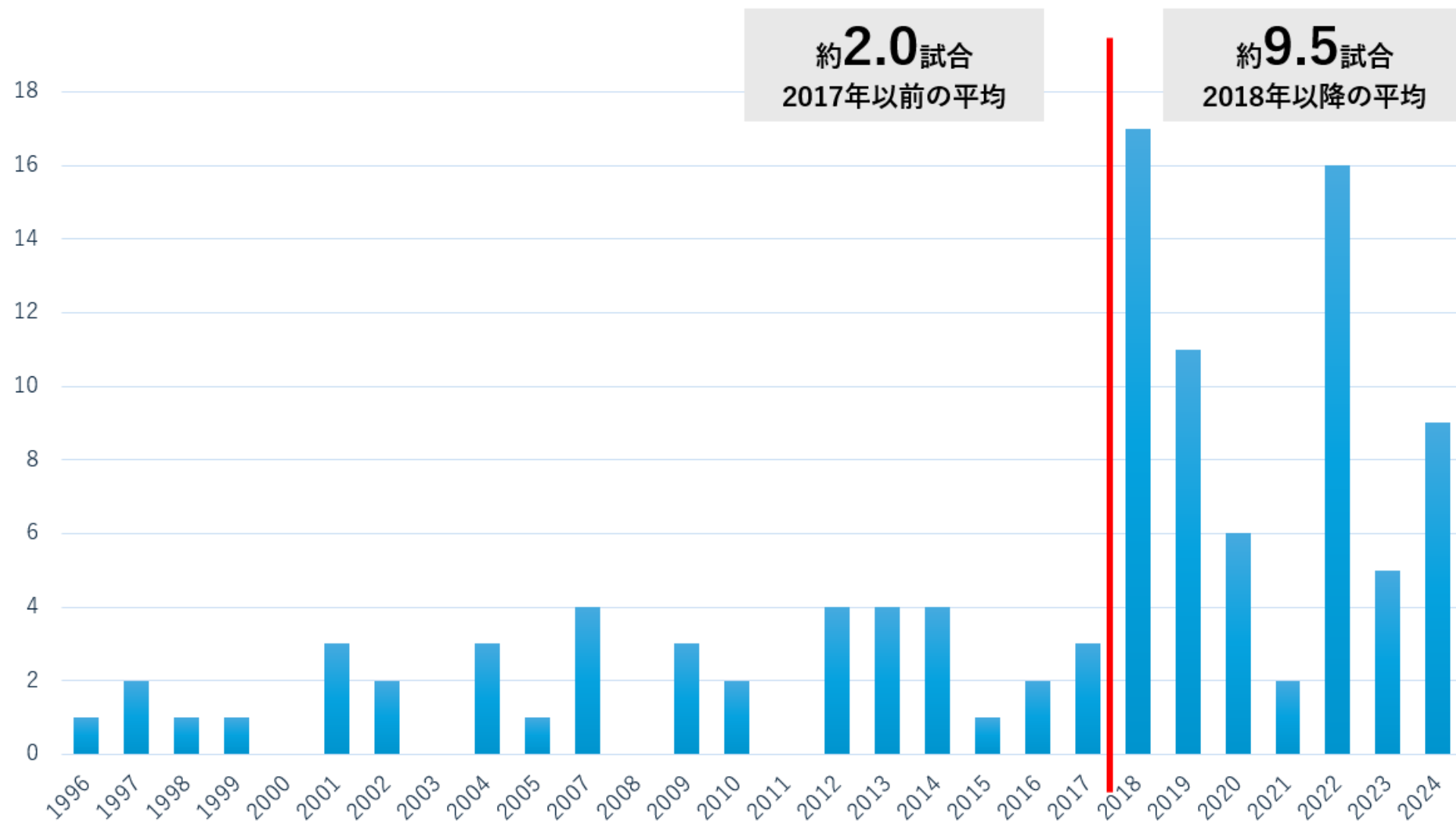
※「活動者」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。

活動目的の構成

※各クラブが実施したホームタウン活動を、クラブからの報告に基づいて集計しています。
※「活動目的」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。

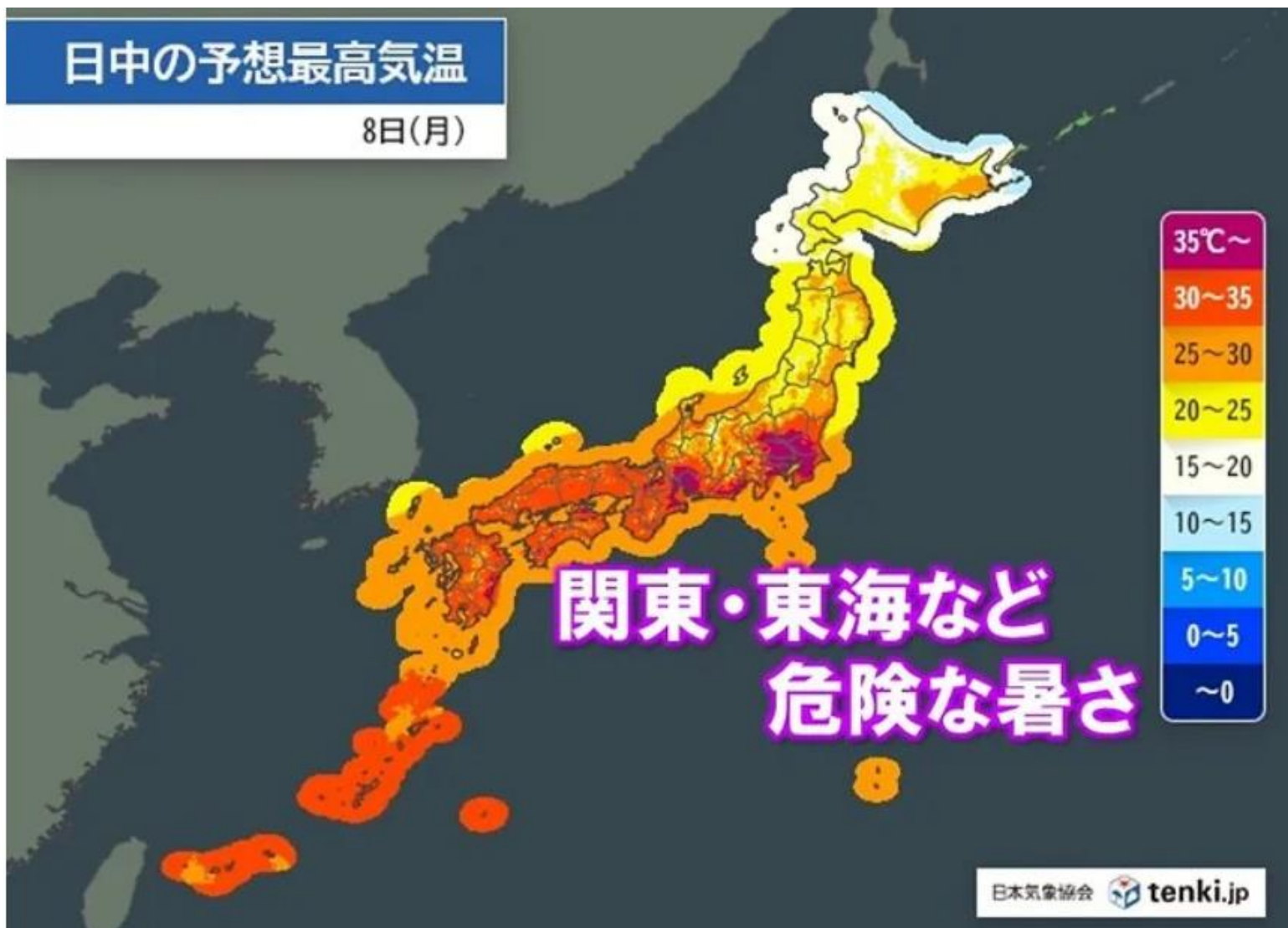


台風激甚化・線状降水帯等による試合中止増加



日中の予想最高気温

8日(月)



“午前中ですでに体温超え
都心は37℃予想
午後は40℃の所も”

(出展) Tenki.jp

https://tenki.jp/forecaster/t_fujikawa/2024/07/08/29479.html

日刊スポーツ



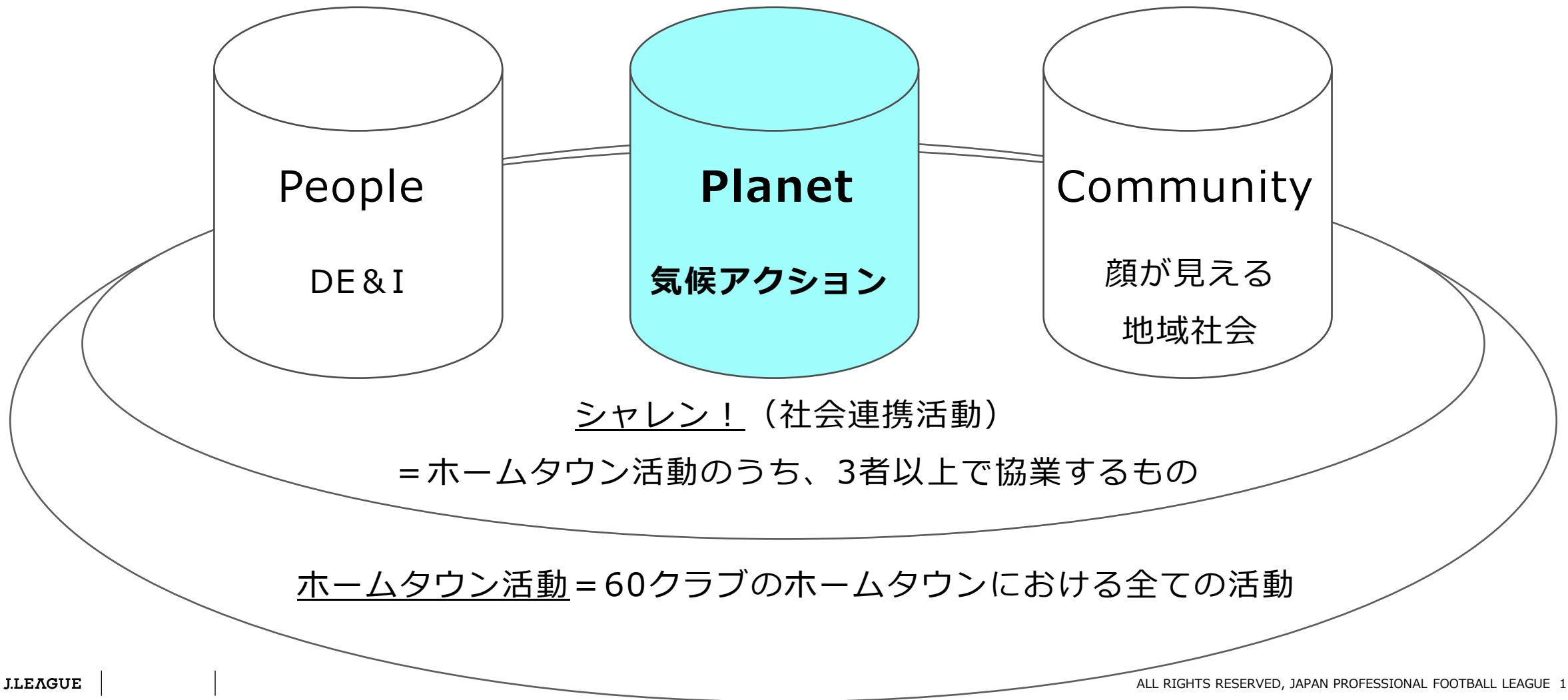
対談に臨むサッカー日本代表森保監督（中央）（撮影・埜建太）

1年前の今日、サッカー場で1人の男性が倒れた。2023年（令5）7月2日。埼玉県シニアサッカーリーグO-40（40歳以上）の公式戦に出場後、炎天下で意識を失い、帰らぬ人となった。42歳だった。事態を重く受け止めた日本協会（JFA）は、全国に熱中症対策の周知徹底を要請した。一周忌を前に、日本代表の森保一監督（55）が遺族と面会。再発防止への願い、酷暑下の「夏場のスポーツ」について考えることを、提起した。（敬称略）【取材・構成＝木下淳】

【引用】もう1人も失いたくない…森保監督と考える「酷暑とサッカー」42歳急逝から1年…遺族と初対面（日刊スポーツ）
（<https://www.nikkansports.com/soccer/japan/news/202407020000030.html>）



【引用】バモス！ 元Jリーガー衛藤 裕プロデュース 福岡県ジュニアサッカー専門誌 VAMOS JUNIOR SOCCER MAGAZINE #11
(<https://vamos.soccer/vamos10>)



影響を受ける側でもあり、与える側でもある

マイナスインパクトに向き合う：2023より全公式戦実施再エネで開催



気候アクションパートナー

 丸紅新電力

 **Eurus Energy**

 日本自然エネルギー株式会社

2024-25

意識が変わる



2027

行動が変わる



2030

仕組みが変わる

“気候変動とサッカーには深い関係があり、サッカーファミリーはその解決の力になれる。”

温室効果ガス

「Scope1,2」排出量と削減量を可視化

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（10クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

サッカーファミリーが学ぶ場の
深化・拡大

“地球とサッカーを守るため、カーボンニュートラルを意識した選択と行動がサッカーファミリーのスタンダードになる。”

温室効果ガス

「Scope1,2,3」排出量と削減量を可視化

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（30クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

サッカーファミリー、地域のステークホルダーが連携を深め、行動・実践が加速する

“ホームタウン全てで、カーボンニュートラルと地域活性化を両立するための社会システム実現が進む。”

温室効果ガス

CO2排出量初年度対比50%削減

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（60クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

様々なステークホルダーとともに、便利で環境に優しい仕組みづくりに向けて前進する

ポジティブインパクトを創出する：Jリーグの社会関係資本

のべ
約 **1,250** 万人

全 **60** クラブ **87**%



2024-25

意識が変わる



2027

行動が変わる



2030

仕組みが変わる

“気候変動とサッカーには深い関係があり、サッカーファミリーはその解決の力になれる。”

温室効果ガス

「Scope1,2」排出量と削減量を可視化

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（10クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

サッカーファミリーが学ぶ場の
深化・拡大

“地球とサッカーを守るため、カーボンニュートラルを意識した選択と行動がサッカーファミリーのスタンダードになる。”

温室効果ガス

「Scope1,2,3」排出量と削減量を可視化

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（30クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

サッカーファミリー、地域のステークホルダーが連携を深め、行動・実践が加速する

“ホームタウン全てで、カーボンニュートラルと地域活性化を両立するための社会システム実現が進む。”

温室効果ガス

CO2排出量初年度対比50%削減

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（60クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

様々なステークホルダーとともに、便利で環境に優しい仕組みづくりに向けて前進する

意識・行動が変わる：動画『サッカーができなくなる日!?』



サッカーが出来なくなる日！？



意識・行動が変わる：スマイルフットボールツアー

Jリーグ × 小野伸二

for a Sustainable Future
supported by 明治安田



全国60クラブを回り、128名の小学生、保護者の皆さまと共にサッカーと気候変動を学ぶ



意識・行動が変わる：サステナビリティカンファレンス



トottenhamホットスパー  × Jリーグ  × 日本財団 



2024-25

意識が変わる



2027

行動が変わる



2030

仕組みが変わる

“気候変動とサッカーには深い関係があり、サッカーファミリーはその解決の力になれる。”

温室効果ガス

「Scope1,2」排出量と削減量を可視化

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（10クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

サッカーファミリーが学ぶ場の
深化・拡大

“地球とサッカーを守るため、カーボンニュートラルを意識した選択と行動がサッカーファミリーのスタンダードになる。”

温室効果ガス

「Scope1,2,3」排出量と削減量を可視化

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（30クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

サッカーファミリー、地域のステークホルダーが連携を深め、行動・実践が加速する

“ホームタウン全てで、カーボンニュートラルと地域活性化を両立するための社会システム実現が進む。”

温室効果ガス

CO2排出量初年度対比50%削減

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（60クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

様々なステークホルダーとともに、便利で環境に優しい仕組みづくりに向けて前進する

仕組みが変わる：スウェーデン（マルメ市）の事例



2024-25

意識が変わる



2027

行動が変わる



2030

仕組みが変わる

“気候変動とサッカーには深い関係があり、サッカーファミリーはその解決の力になれる。”

温室効果ガス

「Scope1,2」排出量と削減量を可視化

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（10クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

サッカーファミリーが学ぶ場の
深化・拡大

“地球とサッカーを守るため、カーボンニュートラルを意識した選択と行動がサッカーファミリーのスタンダードになる。”

温室効果ガス

「Scope1,2,3」排出量と削減量を可視化

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（30クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

サッカーファミリー、地域のステークホルダーが連携を深め、行動・実践が加速する

“ホームタウン全てで、カーボンニュートラルと地域活性化を両立するための社会システム実現が進む。”

温室効果ガス

CO2排出量初年度対比50%削減

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（60クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

様々なステークホルダーとともに、便利で環境に優しい仕組みづくりに向けて前進する

仕組みが変わる：地域再工ネ助成金



ガイナレ鳥取（ソーラー×オーガニック芝）



水戸ホーリーホック（ソーラー×オーガニック野菜）



Jリーグサステナビリティ事業**活性化**プロジェクト

クラブの現状を可視化：Sport Positive Leagues (SPL)



Premier League Clubs Environmental Sustainability Report



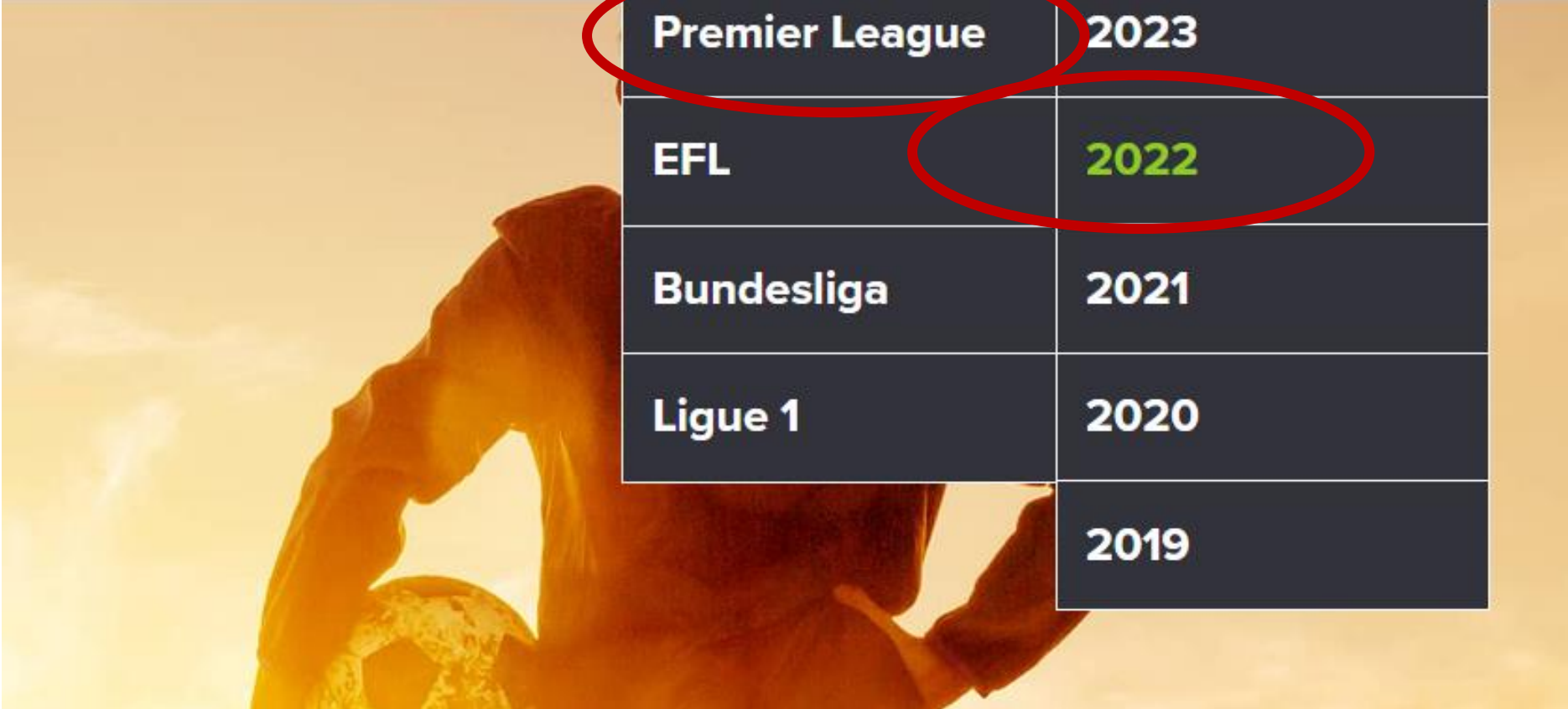
気候変動対策にとって重要な12項目*について、
取り組み状況を独自の評価基準マトリクスを用いて評価。
プレミア 2018/19シーズンよりランキング化を開始

*①ポリシーとコミットメント、②クリーンエネルギー、③エネルギー効率、
④持続可能な輸送/移動、⑤使い捨てプラ削減/廃止、⑥ゴミの削減管理、
⑦水利用の効率、⑧植物性/低炭素食品、⑨生物多様性、⑩選手/スタッフへの教育、
⑪コミュニケーション、⑫持続可能な調達

現在は、EFL、**Bundesliga**、**Ligue1**についても評価
Jリーグは**2026年1月**からスタート（アジア初）

クラブの現状を可視化：Sport Positive Leagues (SPL)



Home	What We Do	Leagues	Press	Contact
		Premier League	2023	
		EFL	2022	
		Bundesliga	2021	
		Ligue 1	2020	
			2019	

クラブの現状を可視化：Sport Positive Leagues (SPL)



	ポリシーと コミットメント	クリーン エネルギー	エネルギー 効率	持続可能な 輸送/移動	使い捨てプラ 削減/廃止	ゴミの削減 管理	水利用の 効率	植物性/ 低炭素食品	生物多様性	選手/スタッフ への教育	コミュニ ケーション	持続可能な 調達
CLUB	Policy and Commitment	Clean Energy	Energy Efficiency	Sustainable Transport	Single Use Plastic Reduction or Removal	Waste Management	Water Efficiency	Plant- Based/Low Carbon Food	Biodiversity	Education	Comms & Engagement on Sustainability	Sustainable Procurement
+ 1 = TOTTENHAM HOTSPUR (24/27)	2	2	2	3	1	2	2	2	2	2	2	2
+ 1 = LIVERPOOL FC (24/27)	3	2	2	3	1	2	2	2	2	1	2	2
+ 3 = MANCHESTER CITY FC (23/27)	2	2	2	3	1	2	2	2	2	1	2	2
+ 4 = SOUTHAMPTON FC (20/27)	1	2	2	2	1	2	1	2	2	1	2	2
+ 5 = BRIGHTON & HOVE	0.5	2	2	2	1	2	2	2	1	1	2	2

SPL : 評価マトリクス (クリーンエネルギーの事例)

Confidential



Categories	Policy, Commitment & Reporting	Clean Energy	Energy
Points available	2 points available + 1 bonus point	2 points available	2 points available
Shares the How points are allocated (27 max)	2 points available if club has a publicised sustainability policy/strategy that shows commitment to long term, holistic environmental sustainability efforts AND if club is a signatory to UN Sports for Climate Action Framework on high ambition track with net zero targets & are reporting publicly on their scope 1, 2 and 3 emissions OR have set net zero targets and are reporting publicly their scope 1, 2 and 3 emissions	2 points given if 100% of energy at stadium and all other club sites inc. all retail stores is from a renewable source (via utility or mix of utility and onsite generation) – proof required	2 points given if club has a system in place to manage energy efficiency (e.g. LED lighting, energy management system, etc.)
	1 point available if club has a publicised sustainability policy/strategy that shows commitment to long term, holistic sustainability efforts, and if club is a signatory to UN Sports for Climate Action Framework AND/OR has made an external net zero or credible emissions reduction commitment	1 point for more than 75% of energy being provided from renewable source across all club sites, but less than 100%, or for having any onsite generation – proof required	1 point for multiple energy efficiency measures in place across the club
	0.5 point if the club has set an external emissions reduction target but has not yet got a policy/strategy in place towards that OR if a club has a sustainability policy/pledge but has not made any external commitments on emissions reduction targets	0.5 points given if club has some energy provided from renewable sources, but not 75% or more (was up to 40% in 2021)	0.5 point if club has a policy in place to manage energy efficiency
	0 points if the club has neither policies on environmental sustainability in place nor an externally publicised emissions reduction target	0 points given if club has no energy derived from renewable sources or cannot show that any of their energy is provided via renewable sources	0 points if club does not have any energy efficiency efforts in place
	1 bonus point – if in addition to the above, the club is certified to internationally recognised sustainability management system, such as ISO26121		

SPLの2019年度と2023年度における指標比較

	2019年	2023年
ポイント	2ポイント	2ポイント + 1ボーナスポイント
	スタジアムおよび他すべてのクラブ施設におけるエネルギーの100%が再生可能エネルギーである場合、2ポイント（ユーティリティ経由、またはユーティリティと自家発電の組み合わせ）	スタジアム、ショップおよび他すべてのクラブ施設におけるエネルギーの100%が再生可能エネルギーである場合2ポイント（ユーティリティ経由、またはユーティリティと自家発電の組み合わせ） — 証明が必要
	すべてのクラブ施設におけるエネルギーの40%以上100%未満が再生可能エネルギーである場合、または自家発電を有する場合は1ポイント	すべてのクラブ施設におけるエネルギーの80%以上100%未満が再生可能エネルギーである場合、または自家発電を有する場合は1ポイント — 証明が必要
	再生可能エネルギー賄われているのが40%未満である場合、0.5ポイント	再生可能エネルギー源から供給されたエネルギーの一部を使用しているが、80%以上ではない場合には0.5ポイント（2022年には75%まで、2021年には40%までだった）
ポイントの割当て方法	再生可能エネルギーで賄われているのが40%以下の場合、またはクラブのエネルギーが再生可能エネルギー源から供給されていることを証明できない場合は、0ポイント	クラブが再生可能エネルギー源からのエネルギーを保有していない場合、またはクラブのエネルギーが再生可能エネルギー源から供給されていることを証明できない場合は0ポイント
		1ボーナスポイント – クラブがファンと直接積極的に交流し(クラブニュース、ウェブサイト、ソーシャルメディア、スタジアムや試合のプログラムを通じて)、家庭での再生可能エネルギーへの移行を奨励した場合（過去12か月間に3回以上の交流があったことを示す必要あり）

Confidential



(イメージ)

2024-25

意識が変わる



2027

行動が変わる



2030

仕組みが変わる

“気候変動とサッカーには深い関係があり、サッカーファミリーはその解決の力になれる。”

温室効果ガス

「Scope1,2」排出量と削減量を可視化

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（10クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

サッカーファミリーが学ぶ場の
深化・拡大

“地球とサッカーを守るため、カーボンニュートラルを意識した選択と行動がサッカーファミリーのスタンダードになる。”

温室効果ガス

「Scope1,2,3」排出量と削減量を可視化

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（30クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

サッカーファミリー、地域のステークホルダーが連携を深め、行動・実践が加速する

“ホームタウン全てで、カーボンニュートラルと地域活性化を両立するための社会システム実現が進む。”

温室効果ガス

CO2排出量初年度対比50%削減

目指す状態

クラブがハブとなって地域資源（人・文化・自然）を活かしながら 脱炭素が広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている（60クラブ程度）

サッカーファミリーとともに

様々なステークホルダーとともに、便利で環境に優しい仕組みづくりに向けて前進する

